

# 広島大学学術情報リポジトリ

## Hiroshima University Institutional Repository

Title	日本語教育における地域語教育のあり方に関する調査
Author(s)	エカ マレティヤニンシ,
Citation	日本語・日本文化研修プログラム研修レポート集 , 1992 : 1 - 9
Issue Date	1993-03-01
DOI	
Self DOI	
URL	<a href="https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00039318">https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00039318</a>
Right	
Relation	







表 1

広島弁の言語研究		聴解値	頻度			
			1	2	3	
1.	毎日何を(しとまん)。(していま)	20	100%	25%	20%	50%
2.	おんが時間もう(かどった)。(かていた)	18	90%	30%	25%	40%
3.	試験が(みやすい)。(やさしい)	16	80%	55%	20%	20%
4.	今ごろ花が(さいとまん)。(さいていま)	17	85%	35%	20%	40%
5.	ゆうべ獲らえなが、たけ、今日は(しんどい) (疲れた)	9	45%	30%	15%	50%
6.	今ごろ(ぬくい)ね。(あたたかい)	8	40%	45%	15%	35%
7.	もう(ようがさ)。(いいごほう)	14	70%	55%	20%	15%
8.	今日は学校へ(行かん)よ。(行かた)	15	75%	30%	10%	55%
9.	御飯はもう(みてた)。(たくな、た)	0	0%	75%	20%	0%
10.	おんがおんがことは(せん)よ。(しな)	14	70%	35%	10%	30%
11.	もう(いぬま)よ。(帰え)	1	5%	75%	10%	5%
12.	こ、ちに(きんさい)。(来たさい)	15	75%	35%	30%	30%
13.	(はよう)勉強しんさい。(はやく)	19	95%	35%	30%	30%
14.	(うち)はも、とらん。(わたし)	13	65%	40%	10%	40%
15.	(どうしたん)の。(どうした)	17	85%	20%	40%	35%
16.	明日は絶対に雨(しやけえ)。(だから)	10	50%	35%	10%	50%
17.	あのくっは(なんぼ)。(いくら)	7	35%	45%	20%	25%
18.	今(行くけん)。(行くけん)	13	65%	40%	20%	35%
19.	掃除(せんにいけん)。(しなけんはけんない)	10	50%	35%	20%	40%
20.	今日家に(おまん)ね。(いま)	17	85%	30%	10%	50%

(4)

表から、概して、方言がよく理解できてゐることが分かる。一番理解できてゐるのは「してまん」(100%)である。こんな表現はよく使用されてゐるし、留学生もよく耳にある。次は「はよう」である。その場合は共通語として悪んばに違、ていねいから、わかりやすいと思う。「あと、た」はおまわり耳にしないと思うが、よく理解できてゐる。他は「といしてまん」の場合もしてまんに似ている。また「行かん」については否定形の言葉を悪んばによく耳にしないようだ。広島弁の否定形の場合は「ん」を付けられているが、関西弁では「へん」を付けてゐる。そういうのは方言の微妙なところである。つまり地域によつて表現方法が各特徴を持つてゐる。

五。アンケートによる地域語に対する態度調査

調査対象は最初の調査対象と同じだ。調査項目は10あり、自分にとつて適当な答を自由に選ばせた。今回の問題では留学生にとつて方言はどのような思ふてゐるのか、自分にとつて方言を習得するのは本当に役に立つと思ふのかを明らかにしたいと思つた。として回答にこ

- a. は はい
- b. は いいえ
- c. は わからない

しかし、8番の場合は、違う回答がある。

では、今回アンケート項目と調査の回答結果は次の通りである。

	項目	A.	B.	C.	無回答
1.	広島弁はおもしろいと思ひますか。	75%	5%	15%	5%
2.	あなたは方言を使つてゐる時、日本語の変な言葉を話すような感じがしませんか。	25%	50%	25%	-
3.	方言が理解できれば、日本人と話をする時、役に立つと思ひますか。	60%	15%	25%	-
4.	方言が理解できれば、日本人と話す時困りませんか。	55%	20%	25%	-
5.	方言が使えたら、日本人と話をする時、実際に使ひますか。	70%	15%	15%	-
6.	方言を習ひたいと思ひますか。	60%	10%	30%	-
7.	方言を習ふ必要があつたと思ひますか。	45%	30%	25%	-







9の回答に ついて  
 この回答は、日本人は時々方言を話すと、この回答は55名あり、やはり、教室の中でとかが、外で話すと、日本人は留学生に對して、どこの方言が標準語を使っているかが、ついでに方言をしゃべることもある。日本語は日本人の母国語だから、気がつかないことも多いと思う。

10の回答に ついて  
 この問題は9番目と関連して、もし相手が方言をしゃべると、ただ聞き取れずだけでは理解していきなれない。人によつて、日本語を習得する過程が違ってくる。そして、日本人が特に若い人は普通に使っている方言は留學生にとつて、日本人が難しきものが多いと思う。しかし、年齢の差がある。若年層の人は、たまたまわがまの可能性は少ないと思う。たまたま日本人の若い人の中にもわがまの人がいるが、たまたま。単純な言葉に限らぬ。特別な言葉で、自分自身が留學生として、地域語を理解するのは非常に魅力的なことだ。

Ⅱ. まとめ  
 一般的に教室で使用される言葉は標準語であるから、標準語はコミュニケーションの手段として非常に重要である。だからこの留學生も標準語を学ぶ必要がある。その一方で、コミュニケーション能力が高い。しかし、実際の生活の中で通じない可能性も出てくるかもしれない。地元の人々との交流する場合、地元の人はいずれも地域語を使っている。だから困ることもある。だから標準語の次に、各地方の方言も習得する必要がある。進めること、各地方の方言を学ぶことは、生活の場でも必要である。一つ一つの便利さがある。そして、各地方の方言を知ると、実際に使えなくなる。その疑問も、たまたま。だから、地域語を習得したら、なにかと希望がある。そうしたら、地域語に對して異文化感や興味を持って、その方言を一つ一つ学んでいく。たまたま、留學生は方言に對して、異文化感や興味を持って、その方言を一つ一つ学んでいく。たまたま、留學生は方言に對して、異文化感や興味を持って、その方言を一つ一つ学んでいく。たまたま、留學生は方言に對して、異文化感や興味を持って、その方言を一つ一つ学んでいく。

とこの標準語教育と地域語教育の考察を進めていくにあたり、この課題はたくさんある。あくまでも標準語は日本語教育として、最優先とすべきであるが、実際に日本で生活する以上地域語教育は必要不可欠になりつつあるのとは違っている。また地域語教育にどのくらいの力を入れますか、そのバランスなど、さまざま。今後、標準語教育と地域語の現状を更に深く分析し、それぞれその意義を考察し、これからの標準語教育と地域語教育のあり方はどうあるべきかがつきつめて考えていきたいと思います。

### 参考文献

1. 岩波講座 (1977) 「日本語の方言」 岩波書店
2. 平山輝男 (1990) 「日本の方言」
3. 徳川宗賢編 (1979) 「日本の方言の地図」
4. 町 博光 (1992) 「今どき けえ 広島弁」
5. 藤原久一 (1977) 「方言学の方法」
6. 小野光一 (1992) 「北海道方言の現在」 日本語教育 70号

付記。指導教官のご協力のおかげで厚く御礼申し上げます。  
また留学生センターの先生と留学生にも御礼申し上げます。